

6面 YWCA国際研修会(ITI報告)

7面 南京を考える旅2012報告



第31回全国会員総会を開催しました

(3面～関連記事掲載)

The Young Women's
Christian Association

YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第31総会期主題

平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力により平和を構築する。
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・原爆のない社会をつくる
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
- (2) 女性と子どもの権利を守る。
- (3) 若い女性のリーダーシップを養成する。

2

JANUARY
2013

No.712

www.ywca.or.jp

国会や政治で 起きていること 憲法問題を中心に

1. 憲法審査会の始動

憲法審査会始動までの経過

2007年5月改憲手続法が成立したが、安倍首相(当時)の退陣や「9条の会」などの市民運動の盛り上がりで改憲の動きは阻止

2012年11月23日(金・休)、全国会員総会オープンプログラムとして東京慈恵会医科大学教授小沢隆一さんによる「憲法と向き合う」—日本国憲法で未来を拓く—と題した講演会を開催した。

昨年12月16日の衆議院選挙の結果を受け、今改めて私たちの暮らしと憲法について考える時期にある。

小沢さんは講演の初めに、2011年秋から「憲法審査会」の始動により改憲策動が再び活発化し、改憲勢力が多様化してきた現状について説明され本題に入られた。ここに講演要約を掲載する。

誰かの犠牲の上に立つ 幸せなどはありえない 日本国憲法で未来を拓く

は始動した。

憲法審査会での議論状況

東日本大震災を口実に「憲法に非常事態条項を入れよ」との声が大きくなった。しかし、改憲論で地震・津波を防げるのか。原発事故の対応のまずさは憲法のせいと言えるのか。ねらいは9条改憲である。

また改憲手続法の「宿題」である18歳投票制の審議が開始されたが、公職選挙法・民法・刑法(少年法)などの多くの法律との関係において問題が山積みである。

2. 明文改憲・解釈改憲の動き

自民党修正新憲法草案

2012年4月、自民党の修正新憲法草案が発表された。その内容は、天皇は日本の元首などと復古調であり、憲法は権力担当者への国民からの命令であるはずが、国民に対して「尊重」を義務とする一方、公務員は「擁護」のみとするなど立憲主義を否定し、自衛権の発動・国防軍が明記されるなど平和主義の改変がなされている。また、国会議員の過半数による発

され、2009年政権交代により民主党政権のもとで憲法は守られていた。しかし2010年7月、ねじれ国会となったことで民主党は改憲問題で自民党・公明党にすり寄りなければ国会運営が成り立たなくなつた。2011年の3・11東日本大震災をきっかけに2011年8月「緊急事態に関する憲法改正試案」が発表され、2011年11月、「憲法審査会」

議など憲法改正の要件が緩和され
ている。

大阪維新の会の「維新八策」

世代間格差を是正し世代間の対立を煽ることで世の中を変えるもくろみである。参議院廃止も視野に入れた参議院改革や衆議院議員の半減など、国民の声が国に届かないシステム作りやスピーディーで強権的な権力行使が可能な統治構造を目指している。福祉や教育予算を削減してスリムな国家を作るといふ弱者切り捨てが特徴である。

解釈改憲・立法改憲の危険な動き

憲法を変えるのではなく、法律を作ることによって憲法改憲の实质を取る動きもあり、注意が必要である。2011年12月、藤村官房長官談話では「武器輸出3原則」の見直しに言及し、防衛産業界の要求に露骨に迎合。また、集団的自衛権容認へと憲法解釈の変更を唱える動きが顕著になっている。自民党は2012年7月6日集団的自衛権の行使を可能にする「国家安全保障基本法」の概要を

決定し、政権奪還後にこの法案の成立を目指すとしている。

2012年12月の選挙で改憲勢力の議席数が伸びてしまうと、改憲が通常国会の大きなテーマとなつてしまいかねない危険な状況である。

今の政治の焦点について

1. 選挙制度をめぐって

衆参両院ともに、1票の格差が違憲状態になっている。民意を正確に反映する選挙制度を考えるなら、選挙制度の抜本改革が必要である。

2. 原発をめぐって

日本の原発政策は、補助金という「利益」誘導による「犠牲のシステム」であった。

原子力発電が是非か、将来の廃棄物をめぐる大局的な合意形成がないまま、高レベル放射性廃棄物の最終処分地の選定という個別の課題について合意形成を求めるのは、手順として適切でない。政

策の抜本的な再検討が必要である。

3. 「社会保障と税の一体改革」

消費税を上げ、一方では福祉や教育の予算を削減するなど、「緊縮政策」を国民に押し付け、大衆増税を進めようとしている。高所得者・大企業の資産・金融に対する課税があまりのままである。

原発や米軍基地の問題は、もとを正せば特定の地域・人たちに負担を負わせるという構造が見える。日本国憲法はこのような状態を拒否している。日本国憲法前文の平和的生存権のくだりがそのことを謳っている。「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から逃れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」、この

理念は「誰かの犠牲の上によって立つ幸せなどはない」というメッセージである。この精神に立って、日本全国・世界の人々と手を携えて、平和や人権・暮らしを守る取り組みをしていきたい。

(要約・第30総会期運営委員)

荒木紀子

魔法のような解決策はない

実生 律子

1票の格差が是正されないままの選挙で、昨年12月16日私たちは自民党中心の政権を誕生させた。投票率59・32%は戦後最低であり、無効票約204万票は過去最高であった。国民をここまで政治に無関心にさせた政治家の責任は重い。一方、任せて文句を言うのではなく、引き受けて考える一人ひとりの姿勢も求められる。

3・11後、私たちは原発とはどういうものであり、政治家・学者・メディアがいかにもたれ合いながらその原発を推し進めてきたかを学んだはずであった。反省したはずであった。それなのに…信じがたい。

安倍首相はすでに、再稼働はもとより、国民的理解を得ながら新規に原発をつくっていくと発言している。昨夏行われたエネルギー政策を決めるための国民的議論では、8割が原発0%の支持であり、また首相官邸前で続いている脱原発の抗議行動を考え合わせても民意とのずれは大きい。核廃棄物の処分や被曝を余儀なくされる原発労働者の問題に魔法のような解決策があるわけではない。将来確実に多くの命が犠牲になるのは明らかである。

また憲法制定から65年。憲法改定が現実のものとなってきた。安倍首相は自主憲法制定の立場であり、夏の参院選で勝利を得れば、一気に改憲へと進むことが予想される。今回メディアは選挙前から自民党圧勝と大きく報道してきたが、そのことは世論形成への誘導とならなかつただろうか。さらに世界101位に甘んじる男女平等格差にも目を向けた。政府は2020年までに意思決定機関への女性の登用を30%にまで高めるとしてきたが、新政権は後ろ向きである。いろいろな意味で夏の参院選の結果が大きく意味を持つということを銘記したい。

(東京YWCA会員)

特集 special Issue

第31回全国会員総会報告 視座を高く、足元を踏みしめ

11月23日(金・休)〜25日(日)、第31回全国会員総会が、紅葉した樹々が美しい国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)で、202名の参加をもって開かれた。これまでの3年間を振り返り、実現できたこと、未だ道半ばにして達成できていないこと等を評価し、これからの4

年間に私たちは何を大切に活動していけばよいのか、その思いと具体的活動について話し合った。

●プレ総会

23日にはプレ総会として二つのワークショップが行われた。ユースキャザリングは、

ホリスティック教育実践研究所所長の金香百合さんをファシリテーターに迎えた。「私OK あなたOK」の自尊尊重の感情から人はエンパワーされていくことを学び、相手の話に耳と心を傾けることの実践により、携帯やメール社会の中で失われたものに気づくとともに、YWCAとは出合いの

中で栄養をいただき、与えるところであることを再発見した。
もう一つは、特定非営利活動法人パブリックリソースセンター事務局長の岸本幸子さんをファシリテーターに「女性たちのリーダーシップトレーニング」〜YWCAの活動をもっと推進するために!〜と題して行われた。日頃の活動の中で、地域YWCAに共通していると課題の解決のために、自分たちの置かれている環境の変化・組織課題を整理した。「弱み」ではなく「強み」から出発し、3年後の目標をはっきりさせ、そこに至るまでの行程をいくつかの小さな目標に区切り、一步一步確実に進んで行くこ

新会長メッセージ

日本YWCA会長 俣野尚子



昨年末の衆議院選挙を受けて改憲勢力が増し、私たちの日本は、YWCAの目指す、核のない、また、暴力によらない社会の実現には遠く、どこに希望があるのかと憂い悩む時もあります。しかし、昨年、領土問題で日韓関係や日中関係が国レベルで緊張感を帯びている中でも、8月には韓国YWCAと共催で日本において日韓ユース・カンファレンスを開催し、12月には中国YWCAと共催し南京を考える旅を実施し、実りをあげてきました。東北アジアの諸国の中で国際的な緊張

昨年末の衆議院選挙を受けて改憲勢力が増し、私たちの日本は、YWCAの目指す、核のない、また、暴力によらない社会の実現には遠く、どこに希望があるのかと憂い悩む時もあります。しかし、昨年、領土問題で日韓関係や日中関係が国レベルで緊張感を帯びている中でも、8月には韓国YWCAと共催で日本において日韓ユース・カンファレンスを開催し、12月には中国YWCAと共催し南京を考える旅を実施し、実りをあげてきました。東北アジアの諸国の中で国際的な緊張

を帯びている時にこそ、国際NGOであるYWCAの存在の意味を確かめられたと感じます。
聖書には、「光は暗闇の中で輝いている」とあります。闇が深いと思う時ほど明かりは鮮明に見えてきます。YWCAの存在がこの日本社会において貴重な存在になっていきます。「見上げてごらん夜の星を」ではないですが、私たちは夜空に輝く星を見上げながら前進していきたいと思えます。夜空の星はすべてが自ら光を放っているのではない、大きな光が当たって輝いているのです。私たちの存在は大きくなくても確かな道しるべを示す赤星なのかもしれません。

第31総会期 会長・副会長・書記・運営委員

代議員による選挙結果は次の通りです。これから4年間よろしくお願いたします。

- 会長／俣野尚子(東京) 副会長／横山由美子(新潟) 吉村千恵(京都)
書記／藤谷佐斗子(東京)
運営委員／
北日本ブロック 半澤敦子(福島) 吉田亜希(札幌)
関東甲信越ブロック 大久保生子(東京) 手島千景(東京)
徳田有希子(横浜) 長澤幸江(東京) 山高万寿子(東京)
坂本渚(名古屋)
東海ブロック 津戸真弓(大阪) 原田みな美(京都) 松原恵美子(大阪)
関西ブロック 西日本ブロック 三木康代(広島) * ()内は所属YWCA



今総会も、東京YWCAで長年書を教えておられる飯田瑤香さんによる、のびやかな書を看板とさせていただきます。

とが大事であることを学んだ。

● 交流会

フエイバードゴスペルクワイヤによる力強い歌声に元気を得て、全員で歌い踊り交流会が始まった。チョコレートフォンデュなどのスイーツをいただきながらの久しぶりの再会に、話が飛び交い楽しい会となった。各地域YWCAの1分間スピーチでは被災者支援活動や今年の目玉プログラムが紹介された。



フエイバードゴスペルクワイヤの歌と踊りで交流会スタート

● オープンプログラム

誰でも参加できるオープンプログラムとして緊急課題である憲法について東京慈恵会医科大学教授、小沢隆一さんのお話を伺った。(1〜2面参照)

● 議事 I 以下を承認。

基調報告 侯野尚子会長が以下の通り話された。「今まさにアゲンストの風が吹いて

いるが、風が無くては船は進まない。多くの痛みや苦しみを通して、一人ひとりの命が尊く、平和に生きる権利を侵害されてはいけないと感じる。生き生きと喜びをもって生きていることのできる社会をつくるため、地域YWCAでの脈々とした活動があり、日本YWCAとして集い合うことが大切であると考える。」

日本YWCA活動報告

(1) 理事会および関連部会報告

(2) 各委員会報告

(3) 被災者支援活動報告

(4) 全国幹事会報告

財団法人日本YWCAの公益新法への対応

第29回全国会員総会(2006・11)から今日までの経緯説明

決算報告

2009・2010・2011年度

決算報告

● 分科会

新総会期のビジョン作りのため4つの分科会に分かれ、話し合いが持たれ、次総会期のアクションを検討した。各分科会の内容は次の通り。

① 憲法改正の動きを知り、アクションを起こそう!

自民党政権下の2007年に国民投票法が制定され、これに反対して政権を取った民主党政権下の2010年、憲法審査会が開始された。信用ならない政治動向を睨み、12月16日に控えた衆議院議員選挙前・選挙後に起こすべき具体的アクションを考えた。日本YWCAの憲法に関する取り組みの歴史を鈴木伶子理事長が、国会に一番近い



憲法に関する分科会では、選挙前と後のアクションを協議

YWCAとして担える現在のアクションについて内山佳子東京YWCA会長が報告した。

② 女性の権利と基地問題

沖縄出身の平良愛香さん(日本キリスト教団三一教会牧師)が、ご自身や家族の経験を交えつつ、沖縄の人々が人権を蹂躪され、基地の存在のために戦争の加害者にされてきた歴史について話された。沖縄YWCAの大城美代子さん、広島YWCAの大川祈さ



んからは、沖縄や岩国での現状についての報告があり、今後実施できる具体的な活動につき協議した。

③ 原発のない社会をつくりだす YWCAの活動を考える

各YWCAや個人から7つの行動が紹介された。原発を止める方法として、県民投票、訴訟の原告団への参加、伊方原発稼働阻止集会への参加、電気代不払いプロジェクト、脱原発つうしんぼ、チャリティー・ダンスイベント、電力マネジメントシステムPPSの利用が報告され、今後のアクションのヒントとなった。運動を展開するためには、他団体協働などの「柔軟性」、協議に時間をかけない「瞬発力」、情報に対応する「機動力」、他人ごとにならない「内面化」の必要性を再確認した。

④ ジェンダーの視点から YWCAの活動を考える

YWCAの「W」に焦点を当て、日常の活動の中から見えてくることを出し合った。私たちの社会はジェンダーバイアスに縛られていることも多いが、YWCAに集う女性たちはさまざまな課題に取り組み自分らし



ジェンダーの視点から活動を考える分科会には60名以上が参加



特集

第31回全国会員総会報告 視座を高く、足元を踏みしめ

special Issue

く生きている。ジェンダーの視点を活動に反映させ、外に向けてこの強みを磨いていくことの大切さを確認した。

●全体会

4つの分科会から協議内容やアピール文に込められた思い等の報告があり、全体での共有・質疑応答をし、アピール文作成を進めた。

●議事Ⅱ 以下を承認。

1. 第31総会期主題

「平和を実現する人々は幸いである―マタイによる福音書第5章9節―」

日本YWCAの使命(ミッション)

「イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する」「世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む」



Y's Wonderful Women賞受賞者からのスピーチに力づけられ会場が沸きました

日本YWCA「ジェン2015」

(1) 非核・非暴力により平和を構築する。
・ 平和憲法をまもり、世界に広める
・ 原発のない社会をつくる
・ 市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く

(2) 女性と子どもの権利を守る。

(3) 若い女性のリーダーシップを養成する。

2. 第31総会期事業計画

3. 第31総会期2013年度予算概要

4. 日本YWCA会則改正

●選挙結果 別掲参照

●Y's Wonderful Women賞

前総会に続き今回も、83歳を過ぎても尚お元気で活動していらっしやる会員の方々を表彰し、記念の額と感謝状を贈呈した。今回は24名(最高齢97歳)の推薦があり、



福島YWCAがオークションに出品したハガキの出品者と落札者

日本YWCAからは、N. ダンボンズバンドから「被災者支援活動の資金に」といいただいたお姉さまお手製のテーブルクロスを出品

7名のご出席があった。

その他全体会では「日本YWCA第31回全国会員総会アピール」を読み上げて採択した。最後に衆議院議員選挙が目前に迫り、特に憲法改正の動きに対して、地域YWCAで次のような緊急アクションを行うことを確認。

* 日本国憲法と自民党改憲案との比較表を掲載した日本YWCA機関紙12月号配布。

* 憲法情報・選挙情報・アクション情報をfacebook、ホームページ、メーリングリストなどを活用し、共有して広める。

なお、日曜礼拝献金138,355円はパレスチナYWCA支援にささげる。

この3日間に共に学び協議したことを各地域に持ち帰り、これからのように生かして展開していくのが問われてくる。視座を高く、しかし足元をしっかりと踏みしめ確実な歩みが続けたい。

第30総会期書記 手島千景

種

わたしの祈りを
御前に立ち昇る香りとし

(詩編141編2節)

昨年(2012)の7月28日、私はフライブルク聖ヨハネ教会にいた。バッハ逝去日記念のコンサートでバッハの曲のみを演奏した。三段鍵盤のバロック様式、メツラーの名器。その重厚な音色が石造りの大伽藍を満たしてくる。

階下には、物乞いをするアルメニアからの難民女性たちがいる。教会の石階段にはたむろする麻薬使用者たち、その中に女性もいた。私は彼女等の間をかき分けるようにして教会に出入りしなければならなかった。施錠の度にドアの音が反響する。まるで世界の苦難を遮断しているような響き。この人たちとかけ離れた所で私はバッハに集中するのだろうか。

やりきれない私の問いにバッハの曲自身が肅々と応えてくれた。「バビロンの川のほとりにて」では、バッハは捕囚の民の悲しみを「キリストの受難」になぞらえて表現している。「装いせよ、おおわが魂よ」は、暗い穴から抜け出し、光の衣を着ようと歌っているのではないか。楽曲の響きが天蓋から、私へと降り注ぐ。この確かな喜びを支えに演奏を届けよう。「立ち昇る香り」となることを願って。

横手多佳子

甲府YWCA賛助員・
山梨英和女学院オルガニスト

YWCA 国際研修会

世界中で行われている 女性への暴力をなくすための さまざまな取り組み

International Training Institute

2012年11月3日(土)〜8日(木)に、世界YWCA主催で韓国を会場に行われた、女性に対する暴力・平和構築・女性のリーダーシップをテーマにした6日間のYWCA国際研修会(International Training Institute: ITI)に参加しました。

この研修会には、アジア、アフリカ、中東ヨーロッパ、南北アメリカ、太平洋やカリブ海諸島地域から30カ国・50名余りの、学生からシニア世代の女性たちが参加していました。

国連の取り組みやCEDAW(女性差別撤廃委員会)についてのレクチャー、そのCEDAWへの提出を想定したNGOレポートの作成、米国PBSのテレビシリーズ「WOMEN WAR & PEACE」のフィロムの観賞など、さまざまなスキルの構築やグループワーク、交流会など盛りだくさんなプログラムでした。

フィールドワークもあり、ソウルからバスで片道2時半かけて、38度線の非武装地帯(DMZ)を訪問しました。現在もまだ停戦中で戦争は続いている状態を目の当たりにして、ドイツが東西に分断されたよう



ドメスティックバイオレンスの犠牲となった女性の靴を展示、トリニダード・トバゴYWCAの「In Her Shoes」の活動より

に、南北に分断されるのは、敗戦国の日本だったかもしれないのと思うと、とても胸が痛くなりました。

各国YWCAの、女性への暴力をなくすための取り組みの事例発表もありました。フィンランドYWCAは、実際の部屋の様子を再現し、インフォメーションカードをいろいろなところに置いて、さまざまな暴力のタイプや状況を伝えるキャンペーン「Rose Alley 76」や、カリブ海にあるトリニダード・トバゴYWCAの、空港や街角でさまざまなパネル展示やダンスなどのアクティビティを行う「In Her Shoes」写真、カナダYWCAの「Rose campaign」、ザンビアYWCAの地域と連携した、政策提言や女性の

ためのスキルセンターの運営など長期的な取り組みが紹介されました。

プログラムの最後には、2015年の世界YWCA総会のときに話し合われる、2015-2035年のアクションプランとして、世界規模で行うキャンペーンについて、グループワークを行いました。「YWCA」の文字を頭文字に使ったメッセージや、カードやリーフレットの開発など、さまざま

多くの出会いに 揺さぶられ



右から3人目、筆者

ITIでは、YWCAの意味を考え、多くの出会いに揺さぶられました。

DMZ(非武装地帯)では、女性も含む若い兵士の方が仕事をしていました。韓国の人に話を聞くと「就職難で兵役に就く女性も多い。自分には息子がいるが、兵役に就かなくてはいけない。北朝鮮と

まな意見が出されました。

国連の方が、「キャンペーンは、キットがあれば、スベシヤリストでなくてもできる」と話していましたが、専門家でなくても、同じ思いを持った人が世界中で行動をすれば、きっとChangeは起こせると、改めてこの研修会で感じる事ができました。

横浜YWCA職員 今地裕美子

韓国は休戦下にあるから」とのことでした。また、パレスチナからの参加者は「信じられないだろうけど、パレスチナの人って困難な状況下でもよく笑うのよ」と話されていました。遠くの国のことに思える暴力や苦しみ、身近な人の命に関わる、自分に関係のあることなのだと痛感しました。

「日本の放射能はどうなの?」と聞かれたり、憲法9条の冊子を渡した時に「平和憲法があるなんて素敵ね」と言ってくださいました。日本の現状を考え、働きかけ、伝え続けていくことの大切さを感じました。グループワークでは、日本の米軍基地と女性への暴力のことをテーマと一緒に考え、アメリカYWCAの方とも沖縄や基地のある町の状況などを話すことができました。

今後も、自分たちが世界を変えることができる、暴力に対してNO!と言い続けるという気持ちを忘れずに生きたいです。

広島YWCA 大川祈

南京を考える旅 2012 共に平和の種を 蒔こう

2012年12月11日(火)~15日(土)



至れば、12秒に1人の割合で命が奪われたことを示す12秒毎の鐘が時を刻む。人を人ともなしていれば起こり得ないような行為をなぜしたのか。国家権力の魔性は日本固有ではなく、原爆投下・アパルトヘイトやパレスチナへも繋るのだから。

2012年12月12日、日中YWCA参加者全員で、「侵華日軍南京大屠殺遭難同胞記念館」を訪ねた。正面の建物の壁には「300000」「侵華日軍南京大屠殺遭難同胞記念館」と標示がされ、屠殺という言葉が重く響く。中国語では家畜を殺すこととは限らず、無情に殺戮する意味だということ。それは、非戦闘員を含めての皆殺し命令のもと、殺される側からすれば理由も抵抗手段もない無辜の方たちを虐殺した取り返しのつかない罪、生命・財産・アイデンティティすべてを踏みしめる犯罪行為だ。青銅の彫刻の頭部が無造作に転がっている。

展示館に入れば、虐殺記念日前日として若男女の人・人…。かき分けるようにして、百人斬り競争などなどの「日本軍の殺す、焼く、犯す、奪うの暴行」展示を見学し、遺体が埋められ白骨化状態が見えるようにしてある万人坑遺址を通り、出口に

領土問題の緊張感、総選挙後の日中間の行方への不安感等の中での大屠殺75年、日中国交回復40年に当たる、まさに神様が与えてくださったこの「時」に、記念碑前で祈り、中国と日本のYWCA会員間の交流を通して、平和のために働く意思を確認できたのは有難いことだった。周恩来首相(当時)は「前事不忘、后事之師」として、罪を問わないという態度を取ったという。敵愾心を掻き立てることもなく、ナショナリズムを煽ることもなく、それは今、戦争の非人道性を忘れずに、いかなる戦争をも、それを起こそうとするあらゆる権力に反対する態度だろう。

「南京を考える旅2012」は、日本YWCA100周年記念事業であった2005年の「ひろしまを考える旅」で提案された東北アジアの平和実現に向けてのユースによるネットワーク作りという具体

案を踏まえた、中国・日本YWCA共催プログラム第2回目(第1回は2007年実施)であり、中国からは北京・天津・広州・西安・成都・南京等地域YWCA会員・職員26名、日本からは14名の参加。12月11日から15日まで、テーマは「共に平和の種を蒔こう」。

戸惑いからの スタート



私は2012年12月11日から5日間、YWCAの南京を考える旅に参加してきました。このツアーのことは中高YWCAの顧問をしている母から聞き、滅多にない機会ですので一緒に参加することにしま

に着実な歩みを踏み出そうではないか。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントI 3章16節)というみ言葉を携えて。

多くの困難の中、開催にご尽力くださった中国YWCAの方々に衷心から感謝申し上げます。

南京を考える旅2012実行委員長
杉村みどり

した。私はまた日本側参加者の中で唯一の20代だったので目立っていたということもあってか、想像を遥かに超える大きな経験をさせていただきました。南京大屠殺記念館(侵華日軍南京大屠殺遭難同胞記念館)の見学をはじめとしたさまざまなプログラムはもちろんですが、個人的にはグループディスカッションが毎日の一大行事でした。グループリーダーを任せ、全員が年上であることや、言葉の壁・考え方の違いなどにより話し合いをまとめるのが難しく、最初は戸惑うことばかりでした。しかし最終的には無事納得のいくグループ発表ができ、同じグループの方々と親睦を深めることができました。非常に濃い話し合いでしたが、中でも「私たちには、歴史に対する責任はな」とも、事実を知る者としてそれを伝える責任がある」という共通認識が持てたことに考えさせられました。今回関わったすべての方々に感謝します。

東京大学4年 杉山ひかり



広島・呉・松山

3市YWCA合同

伊方原発

訪問プログラム

再稼働ストップ！



呉・広島YWCAのメンバーから「また、近隣YWCAと一緒にプログラムを持ちましょう」と声をかけられながら、実現しな
いまま2011年3・11を迎えてしまっていた。その声は「伊方に行きたい」との声に変わり、
2012年11月11日(日)「原発さよなら四国ネットワーク主催の「第26回伊方集会」に合流参加する企画となって実現した。

当日は、広島4名、呉6名、松山5名が松山観光港集合。9時30分雨の中を松山から海岸線経由で出発した。伊方原発までの距離約60キロを3台の車に分乗して、車内は積る情報交換の場となった。12時少し前に到着。すでに原発ゲート前で抗議行動をしていた150名程の群れに加わり用意してきた黄色い布でヒューマンチェーンに参加。ピンクやパープ

ル色で化粧した原発が雨上がりの静かな岬に陣取っていた。その後公民館に移動して愛媛県・高知県・広島県・大分県での運動の具体策を報告し合った。

13年前の「6市YWCA合同プログラム」でお世話になった地元齋間淳子さん・近藤誠さん、お二人とも入院中でお話が聞けなかった。1969年から始まった伊方原発誘致話以来、重なる敗訴に無念のうちに亡くなられた広野房一さん・齋間満さんなどを思い、胸が痛んだ。「私も共に、ここに立つ」との意思表示のプログラムとなった。

松山YWCA 益田明美

本の紹介

日本・中国・韓国3国共同編集
『新しい東アジアの近現代』
上・下巻
日本評論社
定価 2,625円



日中韓の研究者や市民が、異なる歴史的な視座を認めつつ、対話を積み重ねた末に編み出されたのがこの歴史書だ。特に下巻では、国家の歴史ではなく民衆の視点で、戦争とメディア・教育・ジェンダー・戦争責任と戦後補償・日本軍「慰安婦」問題をめぐる国境を超えた女性たちの連帯運動、そして未来に向かうための歴史認識の問題などを捉えている。

この2冊の本を読んで、私が「客観的な事実」として学んできた歴史は、実はアジアの侵略戦争の加害者としての記憶を完全に封印した、自国中心的な歴史であることに、改めて愕然とさせられた。現人口の70%を占めるという戦後世代に、戦争の歴史的事実、特に日本の戦争加害とその責任に向き合うことを伝えるのは、決して「自虐史」教育ではない。偏狭的な民族主義・国家主義のもと、民衆が犠牲とされた過ちを二度と繰り返さないために、そして近隣のアジア諸国とともに平和の未来を築くためには、今こそ国境を超えた歴史認識の共有を出発点として、繰り返し対話を続けることが大切だと思う。

第31総会期編集委員会 長・清田悦子

ご協力ありがとうございます

賛助費

泉 和子 伊藤悦子 伊藤真智子

岩崎俊夫 奥田道子 福葉和寿子

神山妙子 川尻泰子 大里喜美子

北 彩乃 中山ふみ 齋藤佐智子

西島 黎 本田恭子 田中美紗子

田村恵美子 鳥海百合子

山本貴美子 浦和YWCA

ピースメーカーズファンド

女性が創る安全な社会のための寄付

各務和子 清水嶋孝 杉山知子

寺島順子

捜真女学校中学部高等学校

多文化共生サポーター

(国際協力基金)

愛知県岡崎市キリスト教連合

浦和YWCA 福岡YWCA

甲府YWCA

(パレスチナYWCA支援基金)

斉藤純子 山本貴美子

日本キリスト改革派東京恩寵教会

浦和YWCA

(オリープの木キャンぺーン基金)

青島 修 瀧川雄三 江尻美穂子

長谷川 豊 イエニック原田ふたみ

札幌YWCA

クリスマス献金

(オリープの木キャンぺーン基金)

日本基督教団松沢教会婦人会

静岡YWCA 呉YWCA

(ユーストレーニング)

東洋英和女学院同窓会

大阪YWCA シャロン千里

平安女学院中学校・高等学校

浦和YWCA 新潟YWCA

静岡YWCA

指導者養成基金

井原文子 鶴崎祥子 及川津紀子

(2012年12月20日現在 敬称略)

発行所 財団法人日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
office-japan@ywca.or.jp

【駿河台オフィス】
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121/FAX 03・3292・6122

編集発行人 鈴木伸子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料 1,260円(送料込)